

仙台市食育推進計画〔第2期〕最終評価報告書（案）に関するご意見等への対応表

資料3-2

No	項目	ページ	ご意見・ご提案	所属 (氏名)	対応
1	経緯と趣旨	1、2	<基本目標>「食べる力～たのしく食べよう～」の中で、“たのしく”は漢字の“楽しく”でなくてよいのでしょうか。資料としていただいた「仙台市食育推進計画」などは“楽しく”となっているようですが。単純に文言としてよいと考えるのか、目標なのでロゴ的に決められたものとしてみるのか、にもよるかと思いますが、いかがでしょうか。	市民公募 (古林委員)	「楽しく」に統一いたします。
2	指標達成状況	4	指標の達成状況の“3…食育サポーターの登録数”のD評価については触れていないようですが、「登録数」とはその対象年の登録数でしてでしょうか、新たな登録数というわけではなからうかと思っていたところです。活動がされなくなったため等、登録を取り下げの方がいらしたということでしょうか。いろいろな面を鑑みて触れていないのであれば、それはそれでと思います。8月の会議の時に、お話をしていたかもしれませんので私の方で聞き逃していたかもしれません。今の時点で少し気になりましたので書かせて頂きました。	市民公募 (古林委員)	P6に下記を追記いたします。 ・食育サポーター（団体・個人）の数について、活動の縮小、メンバーの減少等により登録を更新する団体（個人）が年々減少し、新規の登録も増えなかったため増加には至らなかった。
3	指標達成状況	4	栄養バランスに気を付けている人の割合が一定程度あり、また、外食栄養成分表示実施店舗数は増加しているが、外食時に栄養成分表示を参考にしている人の割合が伸びていない要因は、多くの市民の「食で健康サポート店」に対する認知度と関係しているのではないかと考えます。「食で健康サポート店」に関する情報発信はどのように行われているのでしょうか。	宮城県生活協同組合連合会 (加藤委員)	「食で健康サポート店」に関する情報発信は、市のホームページへの掲載および、各区総合支所で実施される食育月間、食生活改善普及月間パネル展示等の際に行っております。
4	指標達成状況	4	食品ロスは、地球温暖化にも大きく関係しており、食品ロスや食品廃棄物の処理に伴って発生する温室効果ガスは、世界全体で排出される温室効果ガスの約8%を占めると言われています。日本は、食品の多くを輸入に頼っています。食品ロスを大量に発生させることは、海外の水資源を無駄に消費してしまっていることにもなるのです。このようなことを考えると、◆食品ロス削減のために何かしらの行動をしている人の割合が減少していることは危惧しなければならぬと思います。	宮城県生活協同組合連合会 (加藤委員)	次期計画においても、食品ロス削減の課題は大きいものとして捉えております。食品ロスが環境に及ぼす影響も含めて啓発を進めるとともに、食育推進の主体の課題認識が深まるよう、食育推進会議等における情報共有なども検討してまいります。
5	指標達成状況	4	食品の安全性に関する講習会の受講者の数が減少傾向の要因として、コロナ禍に対応した講習会の開催等が進まなかったことがあるのではないのでしょうか。	宮城県生活協同組合連合会 (加藤委員)	ご意見のとおり、コロナ禍により、集団での対面型講習会等を例年と同程度の規模で開催できなかったことが、講習会の受講者の数の減少の大きな要因であると考えております。令和4年度においては、対面型講習会だけでなく、コロナ禍に対応したウェブ配信による講習会や書面講習会について、随時実施しております。今後もデジタル技術を活用し、より一層啓発に努めてまいります。
6	指標達成状況	4	幼児教育に携わる者として、「朝食を毎日食べる人の割合」の「4歳児」の割合が年々下がっていることを重く受け止めている。仙台市私立幼稚園全体としても今後望ましい食習慣形成のための取り組みを行っていきたいと考える	仙台市私立幼稚園連合会 (木村委員)	朝食摂取については、すべてのライフステージにおいて課題が見られます。幼児期のみならず、継続した取り組みが必要と考えます。引き続き連携した取り組みをお願いいたします。

No	項目	ページ	ご意見・ご提案	所属 (氏名)	対応
7	指標達成 状況	4	食に関する項目全体について、特に市民が主体となって実施すべき項目の評価が低いことが気になります。「食育に関心のある」の割合が低いのでこの項目が全ての基本になると思いますので、何らかの対応が必要と思います。双方型の情報提供が出来ればよいのではないかと思います。A、B評価となっているものについては、企業や店舗への対応ですが、これらは何らかの（正もしくは負の）インセンティブがあったのでしょうか。仙台市で紙媒体やオンライン・SNS等のデジタル媒体で情報発信されていることは存じております。しかし、それが十分市民に行き渡っていないことが懸念されます。食関係でいえば、現在スマホアプリで地域商店街での消費拡大を目指して実施されている「仙台まちいこ」などはかなり周知されていて、日常の話題提供となっております。このような日常生活に密着した参加型の取り組みができれば、まずは市民の食育への意識改革にはつながるのではないのでしょうか。	仙台歯科医師会 (平田委員)	ご意見のとおり、「食育に関心のある人」は低率で、食育に関する意識や態度は十分に醸成されているとは言い難い結果となりました。幼児期・学齢期から成人、高齢者に至るまで、体系的、継続的な食育の充実を図ることに加え、日常の暮らしの場で食育への意識改革につなげるような仕掛けを検討してまいります。
8	指標達成 状況	5	「食育への関心が依然として低いことは大きな課題です」となっていますが、低い要因を探ることが重要ではないかと考えます。低いことを課題にするのではなく、低い要因を捉えることの必要性を課題にしてください。	宮城県生活協同組合連合会 (加藤委員)	後期計画では、20歳代で他の年代と比較し関心が低いこと、職業別では学生において関心が低いことなど、食育に関心が低い対象をメインターゲットと捉えて取り組みを進めてまいりました。いただいたご意見を参考に、今後さらに、食育に関心が低い要因を捉えることを課題として次期計画策定を進めてまいります。
9	柱①	5	「朝起きるのが遅いので、食べる時間がない」「食欲がない」の回答が多かったこと、「仕事や子育て等で自身の健康の優先順位が低くなるこれらの世代に対する取り組みは、その後の生活習慣病予防の観点からも重要である」については、食生活改善ではなく、そもそもその生活スタイルつまり生活習慣を見直すことが必要ではないかと思えます。	宮城県生活協同組合連合会 (加藤委員)	ご意見のとおり、食生活だけでなく、食生活を含めた生活習慣の見直しが必要であると考えます。P8●3つめ、2段落目の文章を下記に変更いたします。 また、子どもの食生活には保護者の生活習慣や食習慣が大きく影響することから、保護者自身の食生活も含めた基本的な生活習慣の啓発について～・・・

No	項目	ページ	ご意見・ご提案	所属 (氏名)	対応
10	柱①	8-13	<p>食育には何を食べるかといかに食べるかを考える必要があります。歯科からのアプローチは「いかに食べるか、食べかた・噛み方」からになると思います。本計画でも具体的なところは取り込めていないような傾向があり、この部分は当該担当委員としても反省すべきところではあります。実際、近年の子どもたちの口腔内（特に歯並びや上下顎の関係）を見るに、明らかに30年前とは相違が見られます。当然、30年前も叢生（所謂、でこぼこの歯並び）や上顎前突（所謂、出っ歯）も見受けられましたが、その割合が明らかに増加しています。具体的内は3～5歳児（乳歯列完成時）の歯列を健診等で観察しても、それぞれの乳歯間に隙間がなく、奥歯で噛んだ時前方から観察すると下の前歯が上の前歯に隠れてしまって見えない事例が非常に多くなってきています。原因として明らかに発育不全が考えられ、幼児期・学齢期の発育不全は高齢期の機能不全を加速させます。発育不全の原因は様々あって学会的にも調査中のところではなりましたが、生活習慣としてはやはり「食べ方」の教育が不可欠だと思います。歯ごたえのある食事、果実なども細かく刻まない、食事の時の姿勢を適正なものにする、などすこしの努力で取り組める内容もあります。しっかりと噛んで3回の食事で満腹になれば間食の頻度も減らすことができます。これは肥満などの生活習慣病の改善にもつながります。正しい姿勢で食事することで口腔内の発育が正常になり、ひいては正しい鼻呼吸を育成でき、それは呼吸器系の感染症の予防につながると言われています。いずれも習慣付前のライフステージからの取り組みが大切です。あまり本委員会でもあまり取り込まれていない内容ではないかとおもいますので、まずは情報共有や指導者・保育者への研修などを通じて、学びの場の提供が出来ればよいのではないのでしょうか。</p>	<p>仙台歯科医師会 (平田委員)</p>	<p>ご意見のとおり、食育には歯と口の健康づくりの視点からのアプローチが大変重要であると考えております。特に、子どもの口腔機能からみた発育・発達について、様々な職種が課題と支援の在り方を共有し、連携のうえ取り組みを推進する必要があることから、保育所栄養士や地域保健活動に携わる歯科衛生士を対象に研修会等を開催しているところであります。食育推進会議等においても共有を図り、それぞれのライフステージにおいて実践支援ができるよう検討してまいります。</p>
11	柱①	13	<p>朝食を食べる習慣について、2割から3割の子供たちが朝食をとっていません。理由として「食べる時間がない」「そもそも食べる習慣がない」が多くを占めているのも気になります。これは世代を超えた負の習慣が形成されてきていることの表れではないのでしょうか。その理由が知りたいです。個別の調査は行っているのでしょうか。個人で改善しようとする理由なのか、それとも社会環境として対応すべき内容なのでしょう。朝食の重要性はいうに及ばないと思います。時間の無い家庭での時短でとれる朝食の情報提供など（根本的な解決ではないかもしれませんが）栄養学的に専門的な見地からの取り組みが望まれます。また、もしかしたら前項で述べた「しっかりと噛む」と相反する内容になったとしたら、それこそお昼の給食が重要性になってきます。知育・体育・徳育の基盤としての食育を意識する必要があります。</p>	<p>仙台歯科医師会 (平田委員)</p>	<p>13ページのグラフについては、2歳児、4歳児の保護者の朝食摂取に関するデータを示しておりました。今回のデータでは示しておりませんが、朝食を欠食する保護者の家庭では、子どもの朝食欠食も多い傾向があると考えます。ご意見のとおり、負の習慣の連鎖は考えられ、環境整備での対応を検討する必要がある反面、家庭での役割も失われ、支援する必要があると考えます。給食は、食育の生きた教材でもあり、よく噛んで食べるようなメニューを提供する場合もございます。今後も、歯科分野の課題に対応した給食について、情報発信も含めた取り組みを検討してまいります。</p>
12	柱②	15	<p>「若い世代の関心が高まるような情報発信について検討する必要がある」について、コロナ禍のなか、対面で集まるのが難しくなっていますことから、YouTube等を活用し、いつでも都合のいい時間帯に視聴できるように、オンラインで24時間情報を配信することも課題ではないのでしょうか。</p>	<p>宮城県生活協同組合連合会 (加藤委員)</p>	<p>ご意見のとおり、情報発信の方法も重要であると考えます。 P15、10行目「若い世代の関心が高まるような情報発信について検討する必要がある」を下記に変更いたします。 若い世代の関心が高まるような情報を、より届くような方法で発信していく必要がある。</p>

No	項目	ページ	ご意見・ご提案	所属 (氏名)	対応
13	柱③	17	食育については若い世代からの取り組みが必要で、意識しなくても地域の食文化が根付いている環境が望ましいと考えます。伝統的な食事には長く続いている歴史・健康的な食事という意味合いもあり、何とか幼稚園保育所・学校で日常的に取り組み環境づくりが必要ではないでしょうか。地域農家や畜産の顔が見える関係構築も必要で、そこに園児児童生徒の参画できる取り組み、それもスペシャルイベント的なものでなく、日常として取り組めるというのではないかと思います。	仙台歯科医師会 (平田委員)	幼稚園、保育所、学校等においては、日々の給食において、季節や時期に合わせて、行事食や郷土料理を提供しております。しかし、給食対応がなくなると、一気に行事食や郷土料理に触れる機会が減少することが想定され、それらの若い世代に行事食や郷土料理の情報を発信し続ける必要があると考えます。ご意見のとおり、生産者との顔が見える関係構築は重要な取り組みであると考えます。次期計画の取り組みの参考にさせていただきます。
14	柱③	18	①学校給食に使用する米を市内産米としたことを評価したいと思います。仙台産でなくとも、県産物であれば地産地消として捉えてよいと考えます。学校給食のパンの小麦粉を国内産と県産のものを使用したことも評価できると思います。 ②生産者との交流や農業体験を通し、日々の食事が多くの人々や自然の恵みによって支えられていることへの理解が深まることも必要ですが、どのように作られているのかや生産者の苦労も伝えていく必要があるのではないのでしょうか。	宮城県生活協同組合連合会 (加藤委員)	①学校給食の地場産物利用品目数の割合は、仙台産、宮城県産を地場産物として計上しております。引き続き、学校給食における地場産物の利用をすすめてまいります。 ②ご意見のとおり、生産の様子や苦労等も伝えていくことで地場産食材への理解がより深まると考えます。引き続き、SNS・ホームページや体験型の講座等を通して消費者の方へ伝えてまいります。
15	柱④	20	大量の食品廃棄物の発生による環境への負荷が増大していることも大きな問題ですが、食品ロスは、環境だけではなく社会問題とも密接に関わっており、極度の食料不安を抱える人は約2.7億人、遠い国の飢餓とも結びついていることに気づいてもらうことも必要と考えます。加えて、日本における貧困問題を解決するためにも、食品ロスとして捨てられてしまう食品を、少しでも十分な食事にありつけない人々へと回し、無駄をなくす必要があることも課題としてとらえてください。	宮城県生活協同組合連合会 (加藤委員)	民間企業等と連携した本市のフードドライブ事業では、未利用食品をフードバンク団体に提供することで食品ロス削減を通じた環境負荷の低減に取り組むとともに、いただいた食品が生活困窮者の支援につながる取り組みと認識しており、この点も周知しております。
16	柱④	21	①「令和元年に食品ロス削減推進法が施行されるなど食品ロス削減は」の後に、以下の文章を追記いただけないでしょうか。 「SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の中でも解決すべき課題の1つとして明記されています。日本政府も、国内で発生する食品ロスを減らすことは重要な課題であると認識しており、」 ②ごみ削減の観点からも引き続き食品ロス削減を推進していくことの必要性について、小売店等から発生した食べものごみは事業系一般廃棄物となり、家庭ごみと同様となることから、私たちの税金で焼却処分されていること、一般廃棄物の処理には年2兆1,290億円以上が費やされている（環境省公式サイト）こと、食品ごみ（生ごみ）は重量の80%以上が水分で、日本はごみの80%近くを焼却しており、焼却率はOECD加盟国でワースト1位であることをもっと周知していただきたいです。	宮城県生活協同組合連合会 (加藤委員)	①P21、7行目～下記のように修正させていただきます。 食品ロス削減は、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）（以下、SDGs）の中でも解決すべき課題の1つとして明記されている。令和元年に食品ロス削減推進法が施行されるなど、食品ロス削減は日本においても、持続可能な社会づくりを進める上で喫緊の課題である。 ②事業系食品ロス削減に向けた取り組みは、「ワケルくんもったいないマルシェ」を開始しております。また、生ごみを減らす工夫のひとつとして、水切りの徹底について啓発を行っております。いただいたご意見を参考に、食品ロスに関わる問題の啓発について検討してまいります。
17	柱④	21	フードロスについては、SDGsに密着する項目です。これこそ食育と徳育の連携の部分ですし、グローバルな視点の育成にもつながるので具体的にところを是非検討していただきたいと思っております。企業へのアプローチも必要な分野ですね	仙台歯科医師会 (平田委員)	次期計画においても、食品ロス削減の課題は大きいものとして捉えております。ご意見のとおり、グローバルな視点も含めた啓発をすすめ、個人及び企業の取り組みにつながるよう検討してまいります。

No	項目	ページ	ご意見・ご提案	所属 (氏名)	対応
18	柱⑤	23	「食品表示を見て情報を得る習慣の定着は見られない」との記載ですが、2015年に消費者庁のもとで食品表示の部分が一元化し、施行された食品表示法により、食品表示に関わるルールが大きく変わってきています。2020年4月栄養成分表示の義務化、2022年4月すべての加工食品に原料原産地表示の義務化やアレルギー物質の表示の仕方、食品添加物表示における「人工」「合成」の用語が削除され、「無添加」「〇〇不使用」という添加物表示に規制が入るようになるなど変わっています。このように食品表示に関して目まぐるしく変わっています。食品表示は消費者にとって、その食品の品質を判断し選択する上でなくてはならない情報源です。仙台市として、市民に対し食品を利用するときの表示の意味を知る能力、食品安全や表示を理解するために消費者もリテラシー（読み解く力）の向上のために必要な施策を推進することを課題にしてください。	宮城県生活協同組合連合会 (加藤委員)	ご意見のとおり、食品表示は、その食品の品質を判断し選択する上でなくてはならない情報源となりますが、その認識も浸透していないことが懸念されます。これまで、情報誌やホームページでの情報提供を実施してきたところですが、食品表示を見ることの必要性も含めて、さらなる啓発を進めるとともに、いただいたご意見のとおり、消費者（市民）の食品表示を読み解く力の向上を課題として、次期計画策定の参考にさせていただきます。
19	推進体制の評価	25	「食育推進ロゴマーク」の普及拡大についての評価と課題をお願いします。	宮城県生活協同組合連合会 (加藤委員)	P 25、7行目から、下記を追記いたします。 しかし、～・・・減少傾向となった。ロゴマークは啓発媒体や講座チラシなどに掲載するなど、仙台市としての食育推進を周知するため様々な場面で活用してきた。今後も、ロゴマークを目印として、市民が食育の取り組みに関心を持つよう、ロゴマークの積極的な活用を進める必要がある。引き続き、関係機関～・・・
20	推進体制の評価	25	ロゴマークの活用について。とても素敵なロゴマークが出来ました。仙台市食育委員会のメンバーの一人として自負するところです。しかし、一方でその活用方法がなかなかつかめないのが現状です。食育関係の講習会などのポスターに掲載する、名刺作成時に掲載して、話題提供のツールとして活用するなどとは思いますが、ほかに活用法として効果的なものがあるでしょうか。また、活用基準について仙台市のHPでは活用申請・報告を求めています。著作権の問題や不適切活用への対策など必要なこととは思いますが、活用のハードルを上げているような気がします。	仙台歯科医師会 (平田委員)	ロゴマークの活用方法については、委員の皆さまからのご意見をいただきながら、活用の幅を広げていきたいと考えます。使用基準につきましては、ロゴマークの活用について事務局が把握できない場合の対応が難しいと考えますが、申請方法や報告内容等簡易的なものにし、活用が広がる工夫について検討してまいります。
21	新型コロナウィルス感染症による影響	25	新型コロナウイルス感染症の影響として、日常生活での黙食・食事時間の短縮など、我々が目指している、楽しい食事時間からの食育には相反する方向性です。これらの影響は既に学校生活でも色濃く出ている傾向が見て取れます。しかし、いまだ収まる気配の見られない状況下で、いかに対応すべきかを考慮する必要があります。コロナ禍であっても、食に対する必要性はなんら変わることはないので、5類に分類された後の対応を考えながら今を生きていく必要性を感じます	仙台歯科医師会 (平田委員)	ご意見のとおり、新型コロナウイルス感染症の影響により、食を取り巻く状況は変化しております。こうした環境の変化に対応しつつ、食を通じたコミュニケーションや生涯を通じた食育を推進できるよう、推進主体の方々と課題を共有し具体策を検討してまいります。

No	項目	ページ	ご意見・ご提案	所属 (氏名)	対応
22	最終評価 および課題	26	<p>①幼児・児童に関するコロナ禍の影響も考慮した食習慣も含めた基本的な生活習慣の定着を図る必要については、保護者等も含めた取組みが必要と考えます。</p> <p>②「適正体重とその重要性」について、具体的に身体に及ぼす影響について記載したほうがより理解が進むのではないかと考えます。</p> <p>③「郷土料理や行事食などは次世代に伝承していくことで守られていくが20～30歳代の若い世代を中心に伝統料理や郷土料理に接する機会が少なくなっている」と若い世代に限定していますが、その親御さん世代においても同様のことが起きているのではないのでしょうか。</p>	宮城県生活協同組合連合会 (加藤委員)	<p>①P8に記載のとおり、幼児・児童に関する取組みは、保護者を含めた取組みが重要であると捉えております。さらに、保護者自身の食習慣や生活習慣を見直す働きかけも重要であると考えております。</p> <p>②P26〇3つめ、7行目 下記のとおり追記いたします。 若い世代の女性のやせの課題も存在している。若年女性のやせは、骨量減少や低出生体重児出産のリスク等との関連があることから、適正体重とその重要性を伝えていく必要がある。</p> <p>③今回の調査結果から、他の年代と比較し20～30歳代において、郷土料理を全く食べない人の割合が多い傾向が見られました。郷土料理等の伝承については、どの年代に対しても必要な取組みと捉えておりますが、20～30歳代をメインターゲットとして捉えました。</p>
23	最終評価 および課題	26	最終評価、課題について、いくつかの視点に分けて書かれていて、とても良いと思いました。推進の柱ごとの評価も具体的でわかりやすいのですが、それらは様々な分野に関わりがあり繋がっているのも、視点に分けた最終評価は分かりやすいと思いました。	市民公募 (古林委員)	ご意見ありがとうございます。次期計画の方向性についても、視点をもとに整理いたします。
24	最終評価 および課題	27	「様々な手段を活用して情報を発信し」とありますが、コロナ禍において対面等での発信が難しいなか、どのような対応・取組みが行われたのでしょうか。コロナ禍以前と同様の取組みを行っていたのであれば、低くなるのは当然ではないかと思えます。	宮城県生活協同組合連合会 (加藤委員)	コロナ禍以前より、HP、市政だより、庁舎内での掲示等により情報発信を継続して行ってまいりました。そのほか、新たな手法として、動画配信による啓発事業を進めており、積極的に情報発信をいたしました。今後もデジタル技術を活用し、より一層情報発信に努めてまいります。
25	全体		<p>指標達成状況まとめ（P4）をみますと、Dが11個、多いですね。これについてはやはり目的達成のためには、それぞれの現場において行動をおこなえばクリアは困難なままです。</p> <p>P7から取組み内容が示されておりますが、これが実施できれば指標達成できるかという大変むずかしいと思われます。</p> <p>1つ1つの取組みが対象者の行動変容につながらなければ良い結果は期待できません。取り組んだら必ずフィードバックしてさらにアプローチすることが最善と思えます。それが可能になる会議に1歩でも前進して、D11個が1個でも2個でもCにBにAになることを皆様方で知恵を出しあい良い結果になる事を願うばかりです。</p>	宮城県栄養士会 (片倉委員)	ご意見のとおり、取組みをフィードバックすることで次の効果的なアプローチにつながると考えます。仙台市としての一体的な食育の取組みをすすめるとともに、食育推進会議を活用したPDCAサイクルに基づいた事業展開を検討いたします。

No	項目	ページ	ご意見・ご提案	所属 (氏名)	対応
26	全体		啓発・発信に工夫されているのがよく分かります。食は生きていく為に必要不可欠でとても大切なことです。 地産地消、食品廃棄、SDGsなど、課題はたくさんありますが、地道な活動が実を結ぶと思います。	仙台市保育所連合会 (門脇委員)	各主体委員の皆様とより一層連携した取り組みをすすめて参りたいと思いますので、よろしくお願いたします。
27	全体		本市の食育推進計画としては、時代をとらえて着実に計画化されていると思います。それゆえ課題も明確になってきていると思います。具体的には様々な課題が十分市民に浸透しているかと言えば更なる努力の必要性を感じます。SDGs、デジタル化、双方型、当事者意識などがキーワードになるのではないかと思います。計画期間も伸びたこともあるので効果的な取り組みに期待します。本会からも協力できる部分は協力させていただきます。	仙台歯科医師会 (平田委員)	ご意見のとおり、対象者（市民）との課題の共有について、手法を検討する必要があると考えます。SDGs、デジタル化、双方型、当事者意識、のキーワードについて次期計画策定の参考にさせていただきます。